

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム

— P A R T 940

— 」開催内容

(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「循環経済の現状・展望とICT活用の最前線」

日時 2024年 2月 28日 (水) 13時00分～17時00分

時間	講演内容	講師
	<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">● 循環経済の現状と展望● 循環経済の課題● ICT活用の重要性・重点課題	
	<p><u>循環経済の現状：</u> 大量生産・大量消費・大量廃棄といった一方向の資源の流れを前提とした線形経済に対し、従来の3R (Reduce, Reuse, Recycle) の取り組みに加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、資源を有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す循環経済を志向したモデルへの移行が活発化している。経済産業省でも「循環経済ビジョン2020」を策定し、資源の枯渇や環境負荷（ごみ問題や温室効果ガス問題など）を軽減し、経済の持続可能性をさらに高めることを推進している。一方、グローバルでの動向に目を向けると、線形経済モデルの限界、市場・社会からの環境配慮要請の高まりを背景に、EUでも、2015年に「サーキュラーエコノミーパッケージ」を採択し、循環経済を主導している。サーキュラーエコノミーパッケージでは、リサイクルと再利用を通じ製品のライフサイクルのループを閉じること、つまり、原材料・製品・廃棄物から最大の価値を引き出すことによって、省エネと温室効果ガスの削減を目指しています。このように、循環経済への転換は、ごみ問題、環境問題や資源枯渇問題にも密接に関係するとともに、温室効果ガス排出削減にも大きく貢献する。</p>	
	<p><u>循環経済の課題：</u> 循環経済を進める上で重要となる効率化、低コスト化、新たな循環の仕組みの構築のためには、情報通信技術の活用が期待されている。センサーやデータ解析技術を利用して、資源の効率的な利用や廃棄物の管理が行われている。産業間の資源に関連する情報を連携、利活用することで、資源の使用状況やリサイクルの進捗状況をリアルタイムに把握することで、より正確な需要予測や最適配置が可能となる。IoTやAI技術の進化で、産業間を跨るサプライチェーン全体におけるデジタル化やプラットフォーム化が重要となる。例えば、製品の生産段階から素材の耐久性・修復性、循環性、易分解性の設計、消費者コミュニケーションにより、分別、洗浄などを訴求する行動変容、資源の回収・分別情報の一元的/リアルタイム把握と回収ルート・タイミングの最適化、再生資源の品質に関するデジタル化と需給マッチングのためのデータプラットフォームの開発、リサイクルが担保できるトレーサブルなデジタル基盤の構築と回収資源の自動識別などが重点的な技術課題となる。</p>	
	<p><u>ICT活用の重要性・重点課題：</u> 循環経済を進める上で重要となる効率化、低コスト化、新たな循環の仕組みの構築のためには、情報通信技術の活用が期待されている。センサーやデータ解析技術を利用して、資源の効率的な利用や廃棄物の管理が行われている。産業間の資源に関連する情報を連携、利活用することで、資源の使用状況やリサイクルの進捗状況をリアルタイムに把握することで、より正確な需要予測や最適配置が可能となる。IoTやAI技術の進化で、産業間を跨るサプライチェーン全体におけるデジタル化やプラットフォーム化が重要となる。例えば図2に示す通り、製品の生産段階から素材の耐久性・修復性、循環性、易分解性の設計、消費者コミュニケーションにより、分別、洗浄などを訴求する行動変容、資源の回収・分別情報の一元的/リアルタイム把握と回収ルート・タイミングの最適化、再生資源の品質に関するデジタル化と需給マッチングのためのデータプラットフォームの開発、リサイクルが担保できるトレーサブルなデジタル基盤の構築と回収資源の自動識別などが重点的な技術課題となる。</p>	
	<p><u>趣旨：</u> 本フォーラムでは、循環経済の現状と課題について共有するとともに、特に、ICT活用の重要性の観点から、プロセスの効率化への課題や、デジタルの遅れによる情報連携、利活用の拡大に関する課題にどのように対策し、どういったマイルストーンで検討が進められているか、その最前線で研究開発に取り組んでおられる第一線の方々にその動向を概説していただくとともに、今後の循環経済に関わる技術の進展を踏まえ、取り組み事例などをご紹介いただく。</p> <p>(座長-総合司会)</p> <p>東京大学 名誉教授 齊藤 忠夫</p>	

13:00 ～ 13:20	(基調講演) 「循環経済を取り巻く環境とICT活用への期待」	質疑 応答	齊藤 忠夫氏 東京大学 名誉教授
13:20 ～ 14:20	「循環経済の課題とICTによる解決の方向性や概要①」 ●プラごみ To C	質疑 応答	小島 理沙氏 京都経済短期大学 教授 (神戸大学特命講 師)
14:20 ～ 15:00	「循環経済の課題とICTによる解決の方向性や概要②」 ●製品リマニュファクチャリング (再製造)	質疑 応答	松本 光崇氏 産業技術総合研究 所 製造技術研究部門 副研究部門長
(休憩) (15:00 ～15:20)			
15:20 ～ 16:20	「循環経済の現状と展望」	質疑 応答	田中 将吾氏 経済産業省 資源循環経済課 課長
16:20 ～ 16:40	「具体的な取り組み事例の紹介①」 ●プラスチックリサイクル事業、産業廃棄物処理事業	質疑 応答	宮川 英樹氏 ヴェオリアジャパ ン サーキュラーエコ ノミー事業開発本 部
16:40 ～ 17:00	「循環型社会の形成に向けたKDDI総合研究所の取り組み」 ●携帯リサイクル ●KDDI Green Partner's fund、 ●スマートゴミ箱の取り組みの紹介	質疑 応答	杉山 浩平氏 KDDI総合研究所 KDDI research atelier フロンティア研究 室 室長

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長
齊藤 忠夫 東京大学
(運営諮問委員会幹事)
代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学
副代表幹事
服部 武 上智大学
森川 博之 東京大学
成宮 憲一 一般社団法人
科学技術と経済の会
幹事
尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長
秋本 芳徳 総務省 大臣官房総括審議官
間宮 淑夫 内閣官房 内閣審議官
渡邊 昇治 経済産業省 商務情報政策局 総務課長
西尾 崇 国土交通省 大臣官房 技術調査課 建設技術政策分析官
立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)
伊藤 寿浩 日本放送協会 技術局長
川添 雄彦 日本電信電話㈱ 代表取締役副社長
桂 一詞 西日本電信電話㈱ 代表取締役常務 常務執行役員
岡 敦子 日本電信電話㈱ 常務執行役員 研究企画部門長
池田 敬 日本電信電話㈱ 執行役員 技術企画部門長
田村 穂積 ㈱NTTドコモ 代表取締役副社長
菅原 英宗 NTTコミュニケーションズ㈱ 代表取締役副社長
伊東 匡 NTTアドバンステクノロジー㈱ 代表取締役社長

星野 理彰 ㈱エヌ・ティ・ティ エムイー 取締役執行役員専務
田村 穂積 ㈱NTTドコモ 代表取締役副社長
吉村 和幸 KDDI㈱ 取締役執行役員専務
宮川 潤一 ソフトバンク㈱ 代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO
石原 直 東京大学大学院 工学系研究科 特任教授
浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長
遠藤 信博 日本電気㈱ 特別顧問
新野 隆 日本電気㈱ 取締役 会長
木内 道男 日本電気㈱ 執行役 Corporate EVP 兼
テレコムサービスビジネスユニット長
執行役員専務 システムプラットフォーム
フォームビジネス部門長
榑田 龍治 富士通㈱
石田 貴一 ㈱日立製作所 事業部長
伊藤 明男 ㈱日立国際電気 副社長執行役員
ジ・エシ・ジョン・ウォン ㈱アリュエーション&ネットワーク㈱ 代表取締役社長
(主な設立発起人)
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授
吉川 弘之 東京大学 元 総長
立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)
杉本 榮一 自由民主党 元 政務調査会 調査役
(最高顧問)
甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

マルチメディア推進フォーラム – PART940 – 開催

●日時 2024年 2月 28日 (水) 13時00分～17時00分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申し込み下さい。
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 52,370.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普)
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、2月21日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い
申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は
代理の方の出席が当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。
尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を
停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム – PART940 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL () -	
		FAX () -	
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名(ふりがな)	

支払方法	●銀行振込 () 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書一要・不要